

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-49685
(P2016-49685A)

(43) 公開日 平成28年4月11日(2016.4.11)

(51) Int.Cl.		F I	テーマコード (参考)			
B41J	29/38	(2006.01)	B41J	29/38	D	2C061
G06F	1/32	(2006.01)	G06F	1/00	332	5B011
G06F	3/12	(2006.01)	G06F	3/12	K	5C062
H04N	1/00	(2006.01)	B41J	29/38	Z	
			H04N	1/00	C	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2014-175561 (P2014-175561)
(22) 出願日 平成26年8月29日 (2014.8.29)

(71) 出願人 000006150
京セラドキュメントソリューションズ株式会社
大阪府大阪市中央区玉造1丁目2番28号
(74) 代理人 100097113
弁理士 堀 城之
(74) 代理人 100162363
弁理士 前島 幸彦
(72) 発明者 川上 智司
大阪府大阪市中央区玉造1丁目2番28号
京セラドキュメントソリューションズ株式会社内

最終頁に続く

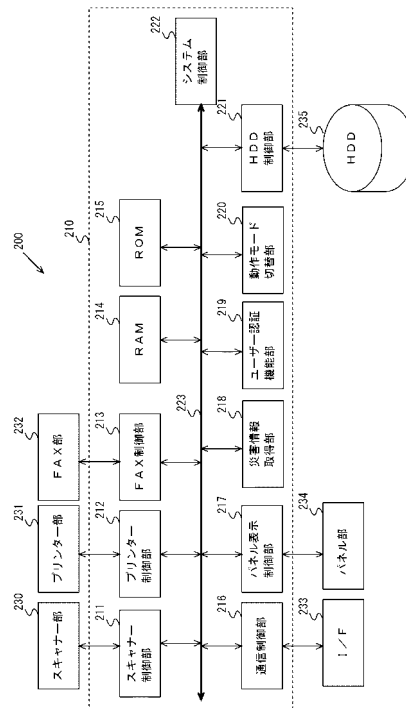
(54) 【発明の名称】 画像形成装置及び画像形成プログラム

(57) 【要約】

【課題】災害情報の警戒レベルに応じて、ユーザー認証と、第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかの特定の動作モードへの切り替えとが制御されること。

【解決手段】システム制御部222は、災害情報取得部218によって取得された災害情報の警戒レベルに応じて、ユーザー認証機能部219によるユーザー認証と、動作モード切替部220による第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかの特定の動作モードへの切り替えとを制御する。これにより、地震などの緊急災害時での警戒レベルに応じてユーザー認証機能を解除することができ、併せて火災などを伴う定着部のヒーターなどの熱源への電力を低減させたりする節電モード、又は緊急停止への選択的な切り替えを行うことができる。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ユーザー認証を行うユーザー認証機能部と、
 現動作モードを特定の動作モードに切り替える動作モード切替部と、
 警戒レベルを示す災害情報を取得する災害情報取得部と、
 前記警戒レベルに応じて、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証動作と、前記動作モード切替部による切り替え動作とを制御するシステム制御部とを備え、
 前記特定の動作モードは、第 1 の節電モード、第 2 の節電モードおよび緊急停止のいずれかである
 ことを特徴とする画像形成装置。

10

【請求項 2】

前記システム制御部は、
 前記警戒レベルが第 1 の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を維持させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第 1 の節電モードに切り替えさせ、
 前記警戒レベルが前記第 1 の判断レベル以上で第 2 の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を解除させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第 2 の節電モードに切り替えさせ、
 前記警戒レベルが前記第 2 の判断レベル以上のとき、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記緊急停止に切り替えさせる
 ことを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

20

【請求項 3】

画像形成装置を制御するためのコンピューターにより実行される画像形成プログラムであって、
 ユーザー認証機能部によりユーザー認証を行う工程と、
 動作モード切替部により現動作モードを特定の動作モードに切り替える工程と、
 災害情報取得部により警戒レベルを示す災害情報を取得する工程と、
 システム制御部により、前記警戒レベルに応じて、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証動作と、前記動作モード切替部による切り替え動作とを制御する工程とを前記コンピューターに実行させ、
 前記特定の動作モードは、第 1 の節電モード、第 2 の節電モードおよび緊急停止のいずれかである
 ことを特徴とする画像形成プログラム。

30

【請求項 4】

前記システム制御部は、
 前記警戒レベルが第 1 の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を維持させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第 1 の節電モードに切り替えさせ、
 前記警戒レベルが前記第 1 の判断レベル以上で第 2 の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を解除させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第 2 の節電モードに切り替えさせ、
 前記警戒レベルが前記第 2 の判断レベル以上のとき、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記緊急停止に切り替えさせる
 ことを特徴とする請求項 3 に記載の画像形成プログラム。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ユーザー認証機能を備えた画像形成装置及び画像形成プログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

50

たとえば、プリンター、多機能プリンター、複合機などのMFP(Multifunction Peripheral)である画像形成装置においては、個人情報や企業内機密情報などが記憶されているものがある。これらの情報は、セキュリティーなどの観点から外部に漏洩しないような対策が施されている。その一つとして、ユーザー認証機能を備えたものがある。これは、ユーザーがパスワードやIDを入力し、それが登録されているものと一致した場合に認証を受けることができ、認証を受けたユーザーのみが特定の情報を出力することができるようにしたものである。

【0003】

ところで、このような画像形成装置では、地震などの緊急災害時において、たとえば予め登録されている避難支援情報などの印刷が可能とされているものがある。ところが、ユーザー認証機能を備えた画像形成装置では、緊急災害時でのユーザー認証が旨くいかず、避難支援情報などの印刷が行えないといったような事態が予測される。

10

【0004】

また、地震などの緊急災害時においては、画像形成装置自体が転倒したり破壊される程の大規模災害(大地震など)が発生すると、定着部のヒーターなどの熱源による火災発生、高圧電源部による感電、トナーなどの飛散を防止するために、画像形成装置を緊急停止させるなどの措置が求められている。

【0005】

この場合、特許文献1で示されている、ユーザー認証装置によるユーザー認証方法を適用することが考えられる。これは、緊急事態を示す信号が入力したとき、ユーザー認証機能を解除し、ユーザー認証無しでの監視システムの操作を可能にしたものである。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特開2001-014051

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

上述した特許文献1でのユーザー認証方法では、緊急時に通常運用時のユーザー管理に従わず、全てのユーザーに操作権を解放することが可能となり、誰もが監視場所の状況の把握が可能となる。

30

【0008】

ところが、特許文献1でのユーザー認証方法では、緊急事態を示す信号のレベル又は内容に応じてユーザー認証機能を解除するようになっていない。そのため、このユーザー認証方法を、上述した画像形成装置に適用しようすると、地震などの緊急災害時での警戒レベルにかかわらず、ユーザー認証機能が解除されてしまうという問題があった。

【0009】

また、地震などの緊急災害時での警戒レベルに応じて、火災などを伴う定着部のヒーターなどの熱源への電力を低減させたりする節電モード、又は緊急停止への選択的な切り替えを行うことができないという問題もあった。

40

【0010】

本発明は、このような状況に鑑みてなされたものであり、上記問題点を解消することができる画像形成装置及び画像形成プログラムを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0011】

本発明の画像形成装置は、ユーザー認証を行うユーザー認証機能部と、現動作モードを特定の動作モードを切り替える動作モード切替部と、警戒レベルを示す災害情報を取得する災害情報取得部と、前記警戒レベルに応じて、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証動作と、前記動作モード切替部による切り替え動作とを制御するシステム制御部とを備え、前記特定の動作モードは、第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止の

50

いずれかであることを特徴とする。

また、前記システム制御部は、前記警戒レベルが第1の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を維持させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第1の節電モードに切り替えさせ、前記警戒レベルが前記第1の判断レベル以上で第2の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を解除させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第2の節電モードに切り替えさせ、前記警戒レベルが前記第2の判断レベル以上のとき、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記緊急停止に切り替えさせることを特徴とする。

本発明の画像形成プログラムは、画像形成装置を制御するためのコンピューターにより実行される画像形成プログラムであって、ユーザー認証機能部によりユーザー認証を行う工程と、動作モード切替部により現動作モードを特定の動作モードに切り替える工程と、災害情報取得部により警戒レベルを示す災害情報を取得する工程と、システム制御部により、前記警戒レベルに応じて、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証動作と、前記動作モード切替部による切り替え動作とを制御する工程とを前記コンピューターに実行させ、前記特定の動作モードは、第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかであることを特徴とする。

また、前記システム制御部は、前記警戒レベルが第1の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を維持させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第1の節電モードに切り替えさせ、前記警戒レベルが前記第1の判断レベル以上で第2の判断レベル未満のとき、前記ユーザー認証機能部によるユーザー認証を解除させ、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記第2の節電モードに切り替えさせ、前記警戒レベルが前記第2の判断レベル以上のとき、前記動作モード切替部に前記現動作モードを前記緊急停止に切り替えさせることを特徴とする。

本発明の画像形成装置及び画像形成プログラムでは、システム制御部により、災害情報取得部によって取得された災害情報の警戒レベルに応じて、ユーザー認証機能部によるユーザー認証と、動作モード切替部による第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかの特定の動作モードへの切り替えとを制御することができる。

なお、上述した第1の節電モードとは、たとえばタッチパネルやランプなどを消灯し、消費電力を低減する低電力モードである。この低電力モードでは、印刷データやFAXなど受信すると自動的に復帰して印刷可能なモードに移行する。

また、上述した第2の節電モードとは、たとえばタッチパネルやランプを消灯するとともに、定着部の温度を下げて消費電力を最小にするスリープモードである。このスリープモードでは、印刷データやFAXなど受信すると自動的に復帰して印刷可能なモードに移行する。

【発明の効果】

【0012】

本発明の画像形成装置及び画像形成プログラムによれば、災害情報の警戒レベルに応じて、ユーザー認証と、第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかの特定の動作モードへの切り替えとが制御されるため、地震などの緊急災害時での警戒レベルに応じてユーザー認証機能を解除することができ、併せて火災などを伴う定着部のヒーターなどの熱源への電力を低減させたりする節電モード、又は緊急停止への選択的な切り替えを行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】本発明の画像形成装置の一実施形態を説明するための図である。

【図2】図1の画像形成装置の構成を説明するための図である。

【図3】図1の情報配信サーバーから得られる災害情報に基づいた制御リストについて説明するための図である。

【図4】図1の画像形成装置における災害情報に基づいた制御処理について説明するためのフローチャートである。

10

20

30

40

50

【発明を実施するための最良の形態】**【0014】**

以下、本発明の画像形成装置の一実施形態を、図1～図4を参照しながら説明する。なお、以下に説明する画像形成装置は、たとえば、プリンター、多機能プリンター、MFP (Multi function Peripheral) などであるものとする。

【0015】

まず、図1に示すように、画像形成装置200は、インターネットなどのネットワーク300を介して情報配信局の情報配信サーバー100に接続されている。

【0016】

情報配信サーバー100は、地震、津波、異常気象などの各種の災害が発生した場合に、その発生した災害に関する災害情報をネットワーク300を介して配信する。

10

【0017】

次に、図2を参照し、画像形成装置200の構成について説明する。画像形成装置200は、制御部210、スキャナー部230、プリンター部231、FAX部232、I/F233、パネル部234、HDD235を備えている。

【0018】

スキャナー部230は、イメージセンサ(図示省略)によって読み取られる原稿の画像データを制御部210に入力する。すなわち、スキャナー部230は、イメージセンサ(図示省略)からの原稿の画像信号をデジタルの画像データに変換し、順次、制御部210に入力する。

20

【0019】

プリンター部231は、制御部210から出力される画像データに基づき、用紙上に画像をプリントする。FAX部232は、制御部210から出力される画像データを、電話回線を通じ相手方となるファクシミリへと送信し、また、相手方ファクシミリからの画像データを受信して制御部210に入力する。すなわち、FAX部232は、図示しないNCU(Network Control Unit)により電話回線との接続を制御しつつ、制御部210から出力される画像データを圧縮し変調して、相手方ファクシミリへと送信する。また、FAX部232は、NCUにより電話回線と接続しつつ、相手方ファクシミリからの画像データを復調し伸張して、制御部210に入力する。

【0020】

I/F233は、ネットワーク300を介し、たとえば情報配信サーバー100との間でのデータの送受信を可能としている。なお、I/F233は、LAN(Local Area Network)などを介してクライアント端末などとの間でのデータの送受信を行うことも可能である。

30

【0021】

パネル部234は、画像形成装置200のプリンター機能、FAX機能、スキャン機能のいずれかの選択や、各種設定などのための表示を行う。

【0022】

HDD235には、画像形成装置200の種々の機能を提供するためのプログラムなどが記憶されている。プログラムとしては、コピー機能を提供するコピー機能提供プログラム、プリント機能を提供するプリント機能提供プログラム、スキャナー機能を提供するスキャナー機能提供プログラム、FAX機能を提供するFAX機能提供プログラムなどである。また、HDD235には、ユーザー認証に用いられるユーザー情報であるパスワードやIDなども登録されている。

40

【0023】

制御部210は、画像形成装置200全体の動作を制御するものであり、スキャナー制御部211、プリンター制御部212、FAX(Facsimile)制御部213、RAM214、ROM215、通信制御部216、パネル表示制御部217、災害情報取得部218、ユーザー認証機能部219、動作モード切替部220、HDD制御部221、システム制御部222を備えている。また、これらは、データバス223に接続されてい

50

る。

【0024】

スキャナー制御部211は、スキャナー部230の読み取り動作を制御する。プリンター制御部212は、プリンター部231のプリント動作を制御する。FAX制御部213は、FAX部232による画像データの送受信動作を制御する。

【0025】

RAM214は、プログラムを実行するためのワークメモリである。ROM215には、各部の動作チェックなどを行うBoot Loader（制御プログラム）などが記憶されている。通信制御部216は、I/F233を介し情報配信サーバー100などとの間でのデータの送受信を制御する。パネル表示制御部217は、パネル部234の表示動作を制御する。

10

【0026】

災害情報取得部218は、情報配信サーバー100からの災害情報を取得する。ユーザー認証機能部219は、パネル部234などを介して入力されたユーザー情報であるパスワード及びIDと、既にHDD235に登録されているパスワード及びIDとを照合し、一致した場合にユーザー情報を入力したユーザーに操作権利があると判断する。また、ユーザー認証機能部219は、詳細は後述するが、災害情報取得部218が取得した災害情報の警戒レベルに応じた後述の制御リスト400に基づき、ユーザー認証機能の維持又は解除を行う。

【0027】

20

動作モード切替部220は、詳細は後述するが、災害情報取得部218が取得した災害情報の警戒レベルに応じた後述の制御リスト400に基づき、画像形成装置200の現動作モードを特定の動作モードに切り換える。現動作モードとは、実行中の動作モードのことであり、たとえば第1の節電モード、第2の節電モード、緊急停止および通常モードのいずれかである。第1の節電モードとは、たとえばタッチパネル（パネル部234）やランプ（図示省略）などを消灯し、消費電力を低減する低電力モードである。この低電力モードでは、印刷データやFAXなど受信すると自動的に復帰して印刷可能な通常モードに移行する。また、第2の節電モードとは、たとえばタッチパネル（パネル部234）やランプ（図示省略）を消灯するとともに、定着部（図示省略）の温度を下げて消費電力を最小にするスリープモードである。このスリープモードでは、印刷データやFAXなど受信すると自動的に復帰して印刷可能な通常モードに移行する。また、特定の動作モードとは、動作モードのうち、第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかである。なお、現動作モードと、動作モード切替部220によって切り換えられた特定の動作モードが同じ動作モードの場合もある。その場合でも、現動作モードから特定の動作モードになったという意味合いで、現動作モードを特定の動作モードに切り換えることと同義と見なすものとする。

30

【0028】

HDD制御部221は、HDD235に対するデータの書き込みや読み出しなどを制御する。システム制御部222は、災害情報取得部218、ユーザー認証機能部219、動作モード切替部220などの連携動作などを制御する。

40

【0029】

次に、図3を参照し、情報配信サーバー100から配信される災害情報の警戒レベルに応じた制御リスト400について説明する。なお、以下に示す災害情報はたとえば地震に関するものとする。

【0030】

まず、情報配信サーバー100から配信される災害情報には、警戒レベル1～6を示すデータが含まれているものとする。ちなみに、警戒レベル1は震度1～2程度を示している。警戒レベル2は、震度3を示している。警戒レベル3は、震度4を示している。警戒レベル4は、震度5弱を示している。警戒レベル5は、震度5強～震度6弱を示している。警戒レベル6は、震度6強以上を示している。

50

【0031】

ちなみに、震度1～2程度では、屋内で揺れをわずかに感じる人がいる、とされている。また、震度3では、屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる、とされている。震度4では、歩いている人のほとんどが、揺れを感じる、とされている。震度5弱では、固定していない家具が移動することがある、とされている。震度5強～震度6弱では、大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しい、とされている。震度6強以上では、立っていることができず、はわないと動くことができない、とされている。

【0032】

本実施形態での制御リスト400では、警戒レベル1～2の震度1～3の場合、ユーザー認証機能維持、第1の節電モード（低電力モード）となっている。また、警戒レベル3～5の震度4～6弱の場合、ユーザー認証機能解除、第2の節電モード（スリープモード）となっている。また、警戒レベル6の震度6強以上の場合、緊急停止となっている。

10

【0033】

なお、第1の節電モード（低電力モード）とは、上述したように、たとえばタッチパネル（パネル部234）やランプ（図示省略）などを消灯し、消費電力を低減する低電力モードである。また、第2の節電モード（スリープモード）とは、上述したように、たとえばタッチパネル（パネル部234）やランプ（図示省略）を消灯するとともに、定着部（図示省略）の温度を下げて消費電力を最小にするスリープモードである。

【0034】

次に、図4を参照し、画像形成装置200における災害情報に基づいた制御処理について説明する。なお、以下の説明において、システム制御部222は、図3に示した警戒レベル1～6のうち、警戒レベル3を第1の判断レベルとし、警戒レベル6を第2の判断レベルとし、ユーザー認証機能部219によるユーザー認証と、動作モード切替部220による特定の動作モードへの切り替えとを制御するものとする。

20

【0035】

まず、システム制御部222は、災害情報取得部218によって情報配信サーバー100からの災害情報が取得されたかを判断する（ステップS101）。災害情報取得部218によって情報配信サーバー100からの災害情報が取得されなかった場合は（ステップS101：No）、取得待ちとなる。これに対し、災害情報取得部218によって情報配信サーバー100からの災害情報が取得された場合（ステップS101：Yes）、システム制御部222は第1の判断レベル以上（警戒レベル3以上）かどうかを判断する（ステップS102）。

30

【0036】

システム制御部222は、第1の判断レベル未満（警戒レベル3未満）であると判断すると（ステップS102：No）、ユーザー認証機能部219に対し、ユーザー認証機能を維持させる。また、動作モード切替部220に現動作モードを第1の節電モード（低電力モード）に切り替えさせる（ステップS103）。なお、画像形成装置200が第1の節電モード（低電力モード）である場合は、第1の節電モード（低電力モード）を継続させる。このように、画像形成装置200を第1の節電モード（低電力モード）とすることで、さらに警戒レベルが高まった場合、第2の節電モード（スリープモード）又は緊急停止への移行を速やかに行わせることができる。

40

【0037】

これに対し、システム制御部222は、第1の判断レベル以上（警戒レベル3以上）であると判断すると（ステップS102：Yes）、第2の判断レベル以上（警戒レベル6以上）かどうかを判断する（ステップS104）。

【0038】

システム制御部222は、第2の判断レベル未満（警戒レベル6未満）であると判断すると（ステップS104：No）、ユーザー認証機能部219に対し、ユーザー認証機能を解除させる。また、動作モード切替部220に現動作モードを第2の節電モード（スリープモード）に切り替えさせる（ステップS105）。なお、画像形成装置200が第2

50

の節電モード（スリープモード）である場合は、第2の節電モード（スリープモード）を継続させる。このように、ユーザー認証機能を解除させることで、緊急災害時であってもユーザー認証を行うことなく、避難支援情報などの印刷を速やかに行うことができる。また、画像形成装置200を第2の節電モード（スリープモード）とすることで、さらに警戒レベルが高まった場合、緊急停止への移行を速やかに行わせることができる。

【0039】

これに対し、システム制御部222は、第2の判断レベル以上（警戒レベル6以上）であると判断すると（ステップS104：Yes）、動作モード切替部220に対し、緊急停止を行わせる（ステップS106）。このように、画像形成装置200を緊急停止させることで、画像形成装置200が転倒した場合であっても、定着部のヒーターなどの加熱を防止することができ、火災などの二次災害の発生を防止することができる。

10

【0040】

このように、本実施形態において、システム制御部222は、災害情報取得部218によって取得された災害情報の警戒レベル1～6に応じて、ユーザー認証機能部219によるユーザー認証と、動作モード切替部220による第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかの特定の動作モードへの切り替えとを制御する。

【0041】

なお、上述した第1の節電モードとは、上述したように、たとえばタッチパネル（パネル部234）やランプ（図示省略）などを消灯し、消費電力を低減する低電力モードである。この低電力モードでは、印刷データやFAXなど受信すると自動的に復帰して印刷可能なモードに移行する。

20

【0042】

また、上述した第2の節電モードとは、上述したように、たとえばタッチパネル（パネル部234）やランプ（図示省略）を消灯するとともに、定着部（図示省略）の温度を下げて消費電力を最小にするスリープモードである。このスリープモードでは、印刷データやFAXなど受信すると自動的に復帰して印刷可能なモードに移行する。

【0043】

具体的には、システム制御部222は、警戒レベル1～6が第1の判断レベル未満（警戒レベル3未満）のとき、ユーザー認証機能部219によるユーザー認証を維持させ、動作モード切替部220に現動作モードを第1の節電モード（低電力モード）に切り替えさせ、警戒レベル1～6が第1の判断レベル以上（警戒レベル3以上）で第2の判断レベル未満（警戒レベル6未満）のとき、ユーザー認証機能部219によるユーザー認証を解除させ、動作モード切替部220に現動作モードを第2の節電モード（スリープモード）に切り替えさせ、警戒レベル1～6が第2の判断レベル以上（警戒レベル6以上）のとき、動作モード切替部220に現動作モードを緊急停止に切り替えさせるようにした。

30

【0044】

これにより、災害情報の警戒レベルに応じて、ユーザー認証と、第1の節電モード、第2の節電モードおよび緊急停止のいずれかの特定の動作モードへの切り替えとが制御されるため、地震などの緊急災害時での警戒レベル1～6に応じてユーザー認証機能を解除することができ、併せて火災などを伴う定着部のヒーターなどの熱源への電力を低減させたりする節電モード、又は緊急停止への選択的な切り替えを行うことができる。

40

【0045】

特に、ユーザー認証機能を解除させることで、緊急災害時であってもユーザー認証を行うことなく、避難支援情報などの印刷を速やかに行うことができる。また、警戒レベル1～6が第2の判断レベル以上（警戒レベル6以上）のとき、動作モード切替部220に現動作モードを緊急停止に切り替えさせることで、定着部のヒーターなどの熱源による火災発生、高圧電源部による感電、トナーなどの飛散を防止することができ、火災などの二次災害の発生を防止することができる。

【0046】

なお、本実施形態では、情報配信サーバー100から得られる災害情報を、地震に関す

50

るものとしているが、この例に限らず、津波、台風、大雨、風害、火山などの災害情報であってもよい。

【 0 0 4 7 】

また、災害情報は、情報配信サーバー 1 0 0 からのものに限らず、テレビジョン放送又はラジオ放送から得られるものであってもよい。この場合、テレビジョン放送又はラジオ放送から得られる災害情報は、たとえば予報、警報、特別警報となっているため、これらを判断レベルとすることで、ユーザー認証機能部 2 1 9 によるユーザー認証と、動作モード切替部 2 2 0 による第 1 の節電モード、第 2 の節電モードおよび緊急停止のいずれかの特定の動作モードへの切り替えとを制御することができる。

【 0 0 4 8 】

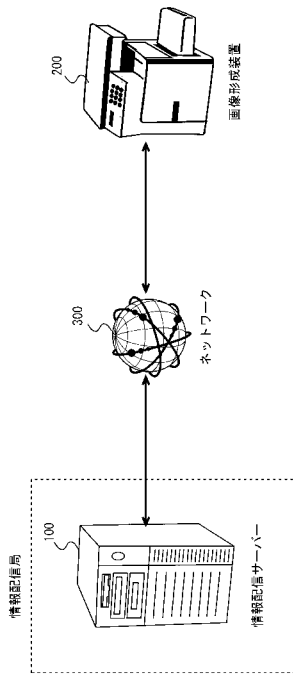
また、警戒レベル 1 ~ 6 がたとえば第 2 の判断レベル以上（警戒レベル 6 以上）のとき、システム制御部 2 2 2 が HDD 2 3 5 に記録されている機密情報などを強制的に削除するような制御を行ってもよい。これにより、緊急災害時であっても機密情報などの漏洩を確実に防止することができる。

【 符号の説明 】

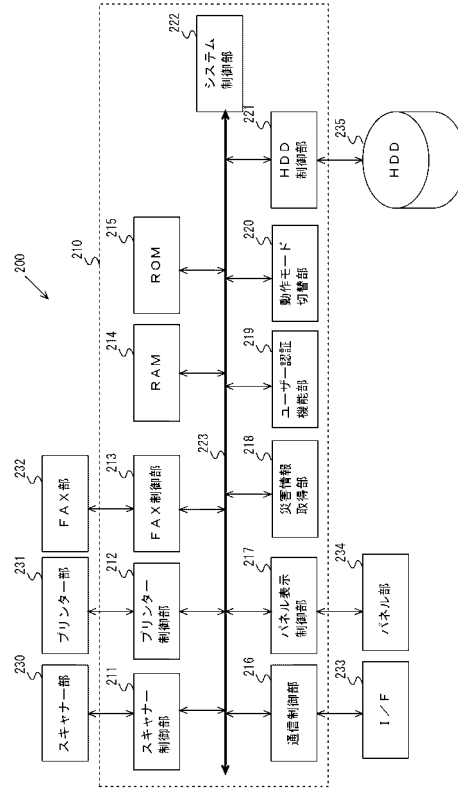
【 0 0 4 9 】

1 0 0	情報配信サーバー	
2 0 0	画像形成装置	
2 1 0	制御部	
2 1 1	スキャナー制御部	20
2 1 2	プリンター制御部	
2 1 3	F A X 制御部	
2 1 4	R A M	
2 1 5	R O M	
2 1 6	通信制御部	
2 1 7	パネル表示制御部	
2 1 8	災害情報取得部	
2 1 9	ユーザー認証機能部	
2 2 0	動作モード切替部	
2 2 1	H D D 制御部	30
2 2 2	システム制御部	
2 2 3	データベース	
2 3 0	スキャナー部	
2 3 1	プリンター部	
2 3 2	F A X 部	
2 3 3	I / F	
2 3 4	パネル部	
2 3 5	H D D	
3 0 0	ネットワーク	
4 0 0	制御リスト	40

【図1】



【図2】

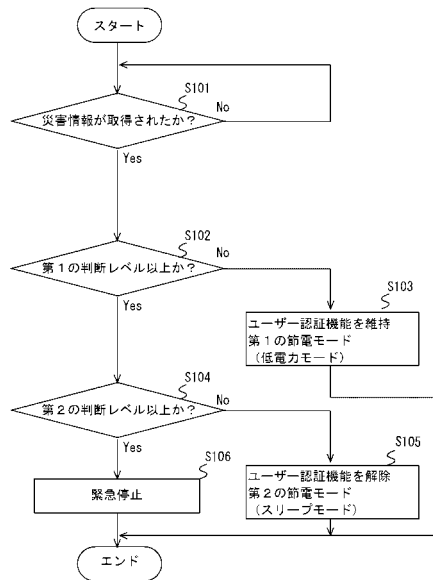


【図3】

(災害情報の警戒レベルに応じた制御リスト) 400

警戒レベル	震度	制御モード
警戒レベル1	震度1～2程度	ユーザー認証機能維持 第1の節電モード (低電力モード)
警戒レベル2	震度3	ユーザー認証機能維持 第1の節電モード (低電力モード)
警戒レベル3	震度4	ユーザー認証機能解除 第2の節電モード (スリープモード)
警戒レベル4	震度5弱	ユーザー認証機能解除 第2の節電モード (スリープモード)
警戒レベル5	震度5強～震度6弱	ユーザー認証機能解除 第2の節電モード (スリープモード)
警戒レベル6	震度6強以上	緊急停止

【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 奥田 真也
大阪府大阪市中央区玉造1丁目2番28号 京セラドキュメントソリューションズ株式会社内

(72)発明者 松木 良臣
大阪府大阪市中央区玉造1丁目2番28号 京セラドキュメントソリューションズ株式会社内

(72)発明者 守谷 友里
大阪府大阪市中央区玉造1丁目2番28号 京セラドキュメントソリューションズ株式会社内

(72)発明者 新田 剛
大阪府大阪市中央区玉造1丁目2番28号 京セラドキュメントソリューションズ株式会社内

Fターム(参考) 2C061 AP01 AP03 AP04 AP07 AQ06 HK11 HN15 HN22 HT02 HT07

HT11

5B011 JA07 LL11

5C062 AA02 AA05 AB20 AB42 AB49 AC22 AF12 BA00